

### 傳説 磐城黒姫物語 [六]

斧 青 三 郎

足元にはつくつくぼうしが生いておりました。心ゆくまでとかした様な春の景色に見とれて黒姫には、少しの不平も怨嗟も憎悪も忘れておりました。緋に咲いた、深山椿の花べんがぼたりと落ちました。餌を漁つてゐた駒鳥が驚いて櫻の樹に飛びました、櫻の花片が蝶のやうに舞ひました、この可愛い景色を見てゐた黒姫は明るい喜びに耽りました、愚念の時折りに語られる「脱俗涅槃」の境に入りました。

澄み切つた黒姫の瞳には碧らんだ西の空に白い鳥が翼を、あやつりながらゆるやかに飛んでゐる様が映りました。

黒姫の眸は、らんらんと燃えました。白鳥は幾回となく大空を翔けて下へ下へと飛んで参りました。

黒姫の眸は、らんらんと閃きました。胸の鼓動が高まりました。その中に白鳥は幾回も輪を描いて大空に翔けました。

「あれ、あれ、白鳥！キツト黄菊兄さんに違ひないよ、あれあれ、降りて来る降りて来る！」

自分を忘れた黒姫は両手を差し伸べて白鳥の舞を迎えるのでした。

この時、

「あれッ！、いたづらもぬの！」

黒姫の美しい髪の毛から顔一面にかけて白鳥の白い糞が垂れたのでした。

### 春 浅 し

(三) (高月句會集)

春浅き陽を背に向けて障子張る  
黒潮の水脈に鳥浮く春浅し  
丘かげのきのふの雪や春浅し  
草の根のより高まりて春浅し  
春浅し雛梅のふくらみて  
剃る頭青く光りて春浅し  
春浅し海苔干す庭に梅二輪  
西山は雪まだらなり春浅き

天 曉 美 仙  
良 亭 美  
紅 果 亭  
閑 鐘 閑 月  
曉 美 樓 月  
閑 月 美

### 文藝 募集

黒姫は小走りに芝生を駆けて小池の端りに参りました。小池には春風に小波がたまたもと、水草をもてあそんでおりました。

水温んだ膏の様な水に両手を入れて夢中で一ぱい掬んで汚れた顔を、何回も何回も洗ひ落しました。

静かだつた鏡の水面には幾重えもの波紋が湧いて水蓮の丸葉の間に春の陽を浴びながら遊んでゐた銀鱗の小魚たちが、驚いて水深くはいつて行きました。そして水の面は元の静かさになりました。梢を行く小鳥の姿が映りました。

黒姫は泥にまみれた足を岸木の上ののせて池の底に映る自分の姿を覗きました。

「あれッ！」

黒姫の金色に澄んだ聲が静かな空気を破りました、山彦が彼方の方で響きました。

黒姫の驚いたのも無理のないことでした。水に映つた自分の顔が、あの黒いみにくさが跡もなく雪の肌を見せたからでした。

それは水蓮の花にも似た美しくさでした。

**外科 X 光線科**  
性病科  
外科科  
科科

平 町 田 町  
安齊外科醫院  
電話 四七五番

意 隨 院 入

**二十八回生徒募集**  
非常時の女性に促す  
産婆看護婦の近道に  
産婆看護婦を御選み下さい  
それには成績の最もよいと定評のある

平南町 産婆看護婦学校へ  
△申込み成るべく早く  
△新學期の開始は四月八日より

平産婆看護婦學校  
校長 清野キヨ子  
電話 三〇七番

旭硝子株式會社製品  
赤菱印  
**板ガラス**  
菓子 壺  
菓子 食器  
其他 各種

松崎硝子製作所  
△支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)  
△平町新川町(電話一四二番)

來る  
二十五日より  
大特賣  
**星野時計店**  
り通場車停平

可愛御子様の卒業  
御進級、御入學の  
記念には是非……  
プレゼントして  
喜ばれる星野の  
時計をおすすめ  
致します。

店員 募 集 廣 告  
徒 弟 入 用

◇ 小 店 員 五 名  
資 格 年 齡 一 拾 三 四 才 以 上 拾 六 才 以 下  
(學 歴 一 尋 常 科 卒 業 又 は 以 上 の 事  
優 待 方 法 (家 族 制 度 の 外 特 別 優 待 方 法 あり)

◇ 徒 弟 拾 名  
◎ 家具職として合理的製作方法を望む人  
資 格 年 齡 一 拾 三 四 才 以 上 拾 六 才 以 下  
(學 歴 一 尋 常 科 卒 業 又 は 以 上 の 事  
修 業 後 の 收 入 一 ヶ 月 金 五 拾 圓 以 上 百 圓 位)

◎ 御希望者は至急御面談又は御問合せを乞ふ

營業所 平町三丁目 電話三三九番  
製作所 平町新田前 電話一八二番

**丸ほん商店**

石 炭  
コークス  
平 驛 前

阿部石炭商店  
電話 三七番

お正月催した鮪とカキ料理デーは多大の御引立に預り誠に厚く御禮申上ます。就きましては又々本日よりまぐろとカキ料理デーを初めましたから何卒以上の御引立の程御願致します。

さしみ山盛	御一	廿五錢	鐵火井	同	十二錢
鮪すし	同	二十錢	ねぎなべ	同	二十錢
フライ	同	廿五錢	ねぎなべ	同	廿五錢
イ	同	二十錢	かさ酢	同	十五錢
			鐵火卷	同	十五錢

平二警察署裏通り  
**魚清食堂部**  
電話 六三三番

徒 弟 入 用

# 消防組狀勢

## 平署管内廿二組

### 功績を語る譽れの金馬簾

平署では二月末現在を以て管内二十二消防組の狀勢を調査したがそれに依ると管内消防組員は

江名の二百八十八名を筆頭に合計四千百廿九名でその内譯は組頭廿二名、小頭二百七十二名消防手三千八百卅五名である、又自動車ポンプは平三、湯本、小名濱各一、計五臺ガソリンは湯本四、内郷二平、磐崎、小名濱、神谷、平窪、上小川、好間各一、計十三臺、蒸気ポンプは平一臺のみでその他はすべて舊式

の手押ポンプ百九臺が時代を外に未だ存在してゐる尙各組の功績を物語る譽れの金馬簾は神谷の三五條を横綱として左の如く合計三百八十八條に上つてゐる

- 平一九 内郷一五 湯本二八 磐崎二八 玉川一五 鹿島一二 小名濱三八 江名三一 豊間一二 高久一二 飯野一二 夏井一二 神谷三五 平窪一五 上小川六 下小川五 赤井二〇 好間一八 箕輪一一 永戸一七 澤渡一五 三坂一二

### 校舍増築記念に

#### 平第三校が校旗を新調

平第三小學校では皇太子殿下御降誕を奉祝し併せて同校増築を永く記念するため同校々旗の新調すべく過般來同窓會員及び同校児童より一人十錢以上職員より一圓宛の寄附を募つてゐるが豫定金額には充分達する良好な成績なので近く同校で意匠考案の作製了へ次第一流商店に依頼する筈で之が樹立式は来る四月十三日第五回の開校記念日を卜て行ふ豫定である

### 松浦技師

#### 土木視察に

本縣土木課松浦技師は十六日縣道石川一湯本線を視察しつゝ自動車にて來郡二日間互つて平及び植田附近の橋梁道路の視察をする

### 橋梁検査

#### 縣技手來郡

縣土木課木材技手は十六日來郡、同日より一週間に亘る

### 中堅農民

#### 講習五十七名

石城郡農會主催の中堅農民講習會は去月十六日から十六日まで一ヶ月に亘つて平町團体事務所樓上で開かれてゐるがこの講習證書授與式は二十一日午後一時から同所で舉行されるが講習修了生は五十七名であると

### 剣道具の購入費を

#### 平第一校が父兄から募る

平第一小學校では本十五日午後二時より同校講堂に於いて保護者會理事會を開き剣道具購入費募集に就いて協議する

### 徴兵事務

#### 兵事主任協議

郡下各町村兵事主任會は十六日午後一時から平町團体事務所樓上で開き徴兵事務に於て協議すると

### 本日迄受付數

新學年度の生徒募集締切り日である磐中、磐女の午前中迄の申込者は磐中が三百三十七名、磐女が三百五十三名に達して居るが昨年より多少減少して居るが兩校共明日正午頃迄受付ける筈尙商業學校は本日午前中迄百二十九名であると

### 簡保患者優待

簡易保險局では今回日本醫師會との間に簡易保險被保險者の診療協定が成立して同保

險加入者の入院治療を同醫師會員の病院に於ては普通料金の半額以下といふ低廉なる料金で取扱はせることになつた  
駒場大尉講演 平商業學校教官駒場大尉は本十五日午後一時より川部小學校に於いて奉天附近に於ける大越中佐の奮戦に就いて講演した

### 内郷校ピアノ

内郷第一小學校では過般皇太子御降誕記念として一千圓のピアノを購入したが之が披露音樂會を来る十八日午前九時から同校講堂で學藝會と併合して盛大に舉行する筈で、午後二時からは父兄懇談會を開くと

### 神谷消防協議

神谷村消防組幹部會は十五日午後一時から同村役場で開き九年度特殊事業施行に就て協議した

### 四倉消防幹部

四倉町警察署管内消防春季幹部大會は来る二十一日午前十時より同町海盛座に於て開かれる

### 平町人事

- △出生 區阿佐ヶ谷一丁目山本庄 司氏二男博夫
- △白銀町四二近江清氏三男 道雄
- △北目町一五三當時東京市 澁谷區神泉町二一内藤諒太郎氏(六二)鈴木マサ(五二)
- △死亡 區立町一五村山運次郎

## 吸入用酸素

純度 99%

度量度  
モノサシ  
ハカリ

体温計  
寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

### 開内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

磐城セメント會社特約店



磐城平町五丁目 電話九番九九番

- 良品廉賣に勝る商略なし
- 確實敏捷は〆の生命なり

## 中村齒科醫院

平町鍛冶町七

感じの良し！  
客に親切な……

- 藥種賣藥、工業藥品
- 衛生材料、各種染料
- 化粧品、其他

## 阿部藥舖

平・田町(松月堂)

# 最後の一を失ふ迄 大自然の猛威と闘ふ

## 海嘯禍數度の久之濱 今は築堤材料に窮乏

### △官林拂下げの請願

海嘯禍に襲はれ続けてゐる久之濱町では今朝來風波次第に静まり返つたのを機に隣接村 大久、小久二ヶ村の消防組員三百餘名の應援を得て假防波堤を建設することになつたが何分去月二十日以來再三の海嘯沙汰に同町々有林を伐採し米俵炭俵等を狩り集めて應援の好機會を逸すおそれがある

### 同町長 等數名が平營

林署に出頭無償拂下げ方を陳情するところあつたが木材炭俵等最後の一つを失ふまで大自然の猛威と闘ふ様は實に凄絶の極である海濱に接近する同町東町約五十戸は破壊して移轉するより外はないとされてゐる

# 平藝妓總出 遠來の珍客歡待

### △前橋の視察團來平

食堂車付二等列車一臺貸切二百名豪華旅行團が十九日午後三時に平町を訪れる前橋市同市商工會議所石川炭販賣組合聯合の東北産業視察團

二百餘名は宮城山形方面の視察旅行を終へて十日午後三時磐城東線で平町に到着するので平町では前橋市よりの懇請により同

學童公判見學 平第三小學校本年度卒業生百十餘名は十五日午前十時から裁判所を見學、本郡下を荒し廻つた時計修繕詐欺犯人

## 魚釣りに出た儘 歸らぬ兄に 失走宣告の申立

### タコマ市に出稼中の出來事

双葉郡浪江町大川添字聖澤二一林泰一は此程松野尾辯護士を代理人として實見文彌を

### 相手取り 平支部に失

踪宣告の申立をしたが申立の要旨は前記文彌は去る大正四年二月迄肩書地に父母弟妹と同居して居たが同年三月渡米し北アメリカ合衆國タコマ市に出稼中の處去

### 友人二名と共にタコ

マ沖合に魚釣せる際暴風雨に遭ひ友人は歸宅したが文彌は歸宅せず法定期間である満三ヶ年を経過した今日尚生死不明なので當時タコマ福島縣人會一同が假埋葬

### 明日のラジオ

十六日

今夜も明日も北西の風強く小雨

### 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
童話劇 ケーブルカー  
後六、二五 英語講座 萩原恭平  
後七、三〇 講演「貨物奉公の遺風に就いて」東北帝大助教授 高柳真三  
後八、〇〇 義太夫 新版

伊藤敬治に係る詐欺事件の公判を傍聴した

### 明日の部

前七、〇〇 基礎英語講座 (三十)岡倉由三郎  
前九、一〇 料理献立

哥祭文 竹本君大夫  
後八、三〇 この花踊り堀江演舞場より中繼  
後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫報

ばずし 磐井たす  
前一〇、三〇 家庭メモ  
前一一、二五 講演「在滿皇軍の第一線の陣中を慰問して」橋本榮子  
後一〇、五〇 五幕曲 大沼多美井外  
後二、〇〇 家庭大學講座「病人と食」(八)醫學博士 佐々藤平  
後二、四〇 社會見學 神戸川崎造船所より中繼  
案内運輸係長海軍大佐青木貞之助  
後五、三五 法律講座「親族相続法」(第十講)東北帝大教授法學博士中川善之助

## 裁判所たより

△小名濱町一自動車運轉手丹野義正(三)は去る一月十八日茨城縣多賀郡關本村地内に於いて貨物自動車運轉疾走中注意を怠り通行中の政井伊代吉(四)に衝突全治五週間を要する傷を與へ業務上過失傷害罰として罰金五十圓に日本平區裁判所に於いて略式命令を以つて處分された

## 器量よしの娘 誘拐されたか

### 家人は大心配

石城郡好間村大字北好間字椎木平太郎二女尋常科六年生渡邊ヨシ子(一)は十四日正午頃學校から歸つたの夕刻になつても歸宅しないので本日平署に捜索方を願出たがヨシ子は器量の好

## 落盤の下敷 坑夫窒息死

湯本町三國九五辰次五男入

## 平職業紹介所報告

- △商店 職役 十七、二十六才迄 尋卒 月八圓位
- △外交員 二十一、三十才位迄 尋卒 注文高二割支給
- △新聞配達 二十五才以下 尋卒 月七圓位
- △商店雜役 四十一、二十才 尋卒 月十圓
- △下男 三十一、三十五才位 無學にても可月十圓
- △女中 十五、三十才位 尋卒 月七圓位
- △小使 五十三才 高卒
- △大工職 二十三才高一修
- △運轉手 二十四才 高卒
- △運轉手 二十六才 高業
- △二年修
- △料理人 三十八才 高卒
- △自動車助手 十八才 高卒



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演  
山本英春畫

第百八十一回

徳川家に崇る村正

月見の無禮講

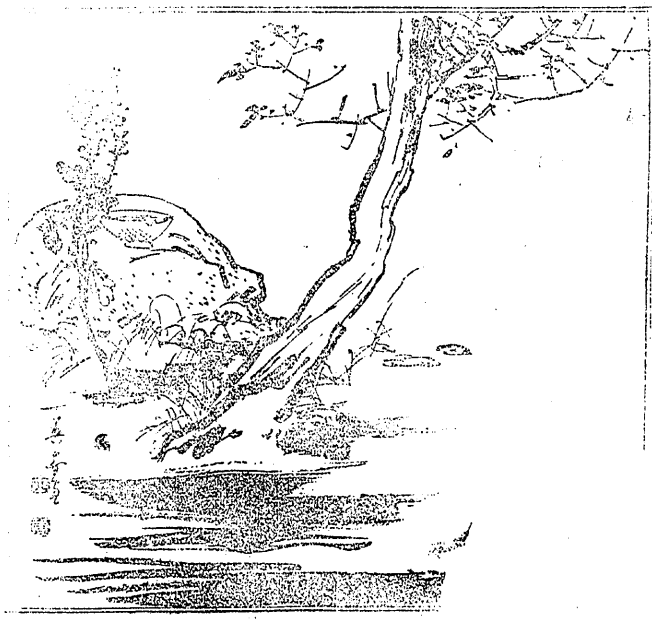
由松が水上の道場に來たのが十一才、それより十六まで丸五年の間、一生懸命劍道の修行をした、普通の者の稽古をするのと違つて仇討ちをしようといふ一心殊にその敵と朝夕顔を合せ主人としてその敵に頭を下げなければならぬ、その度に口惜しいと思ふから、どうして稽古に力が入り上達が早い本多白旗横澤の三人も近頃は、餘程稽古を附けるのに骨が折れる、三本の中一本は打ち込まれるといふ有様だ、五太夫も見所のある奴だと思ふが、何となく虫が好かないから自身で稽古を附ける様な事はしない、然るにその年の秋三五の明月、内の者を集めて、五太夫の酒宴を開きました、歪の敷が廻り、五太夫以下大部分酩酊した時に五『横澤、この席に由松が見えぬではないか』

とであるからこれへ呼びなさい』横『それは有難いことで定めし當人も喜びませう』横澤と白旗が仲間部屋へ來ると、八藏爺さんは少しばかりの酒を出し、チビリ〜と飲んでゐる、由松は

横『八藏お前ではない由松だ』八『それは訝しいぢやございませんか、新參の者をお座敷へお呼びになつて古參の私をお呼びにならないとはそれは如何な譯で』横『先生がおつしやるには由松は下僕ではあるけれども常に道場で竹刀を揮つてゐる、劍術の稽古をしてゐるのだから門人と言つても差支へないとおつしやるのだから行くとお前は筈ばかり揮つて竹刀を揮らないから駄目だ』八『成程そうと解つてゐたら私も少し劍術を習つて置

白『そんな事を申さず參れ男は少し位酒を飯まんければ駄目だ、たとひ飲まんでも先生が仰言るのだから行かんければいかん』由『左様でございますか、それでは一寸御挨拶にだけ参りませう』二人に連れられて由松座敷へ來て末席へ座る

五『コレ貴様は神罰の恐ろしさを知つて主命に背く大罪の恐ろしさを知らんか此の水上五太夫は一旦言ひ出したからは後へは退かん男だ、サア飲め、飲まんと言ふなら、一刀の下に首を叩き落し、その切口より酒をつぎ込むから覺悟をしろ』と亂暴にも傍にあつた村正の一刀を取つて鯉口を切つた、逃げるかと思ふと由松逃げない



由松が酒宴の席に居る様子

お酒は頂戴いたしません』五『何のまだ十五や十六の小僧だ、下戸も上戸も分つたものではない飲まんから飲めんのだ、飲めば飲める酒は澤山飲めば毒になるが少し飲めばこんな薬なものはない、サア飲め』由『へエ、それでも何でございませぬ、少し心願でございまして、琴平様へ二十五まで酒を断ちました、どうか御勘辨を願ひます』

五『何に酒を断つた、生意氣な事を申すな、第一其の方の申すことは前後不揃だぞ、断つと云ふのは好きなのを止めることだ、貴様今酒は嫌ひだと言つたらう嫌なものゝ断つて何で利益がある、四ノ五ノ由さず主人の遣はすさかづきだ受けろ一杯飲め』

由『それでも一旦断ちましたものを破りましては神罰が恐ろしいでございます』

横『ハッ、彼は下僕の事故遠慮させました』五『いや、下僕とは申しながら、常に道場に於て竹刀を握つてゐるから、門弟の一人と見ても差支へない、殊に今夕は無禮講のこ

窓に寄り掛つて月を眺めてゐる

白『オイ、先生が酒宴の席へ入れてやるとおつしやるから來なさい』八藏早合点をして八『それは有難いことで早速伺います』

白『そんな事を申さず參れ男は少し位酒を飯まんければ駄目だ、たとひ飲まんでも先生が仰言るのだから行かんければいかん』由『左様でございますか、それでは一寸御挨拶にだけ参りませう』

二人に連れられて由松座敷へ來て末席へ座る

由『それでも一旦断ちましたものを破りましては神罰が恐ろしいでございます』

**咽喉專門**

平町田町七〇番地

入院 應需

山内醫院

醫學士 山内亨吉

電話六九一

胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥

松前 家傳

**靈効散** (無効返)

ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致しました。今迄のは福島市内で製藥したので兎角の批評がありました。使用しなくては其の眞價が判りませぬから皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、輕病、心臓、痔疾の方は是非御試し下さい。クサにならず根治致します。兒小用の靈効散も出來ました。

定價 試用分(八日分) 五十錢 重症用(四十五日) 四百錢 腦症用(廿日分) 壹圓

販賣部 地方代理店 阿康藥舖

平町古鍛冶町縣社ノ下

電話四四番

**吉田眼科病院**

平瀬屋町電話六八番

眼科專門 院長 吉田 安雄

醫學士 吉田 久雄

**ランドセル**

手提カバン

◇小學生用靴各種◇

ランドセル大 型 ¥.75

ランドセル極大 型 ¥.90

ランドセル特選 牛皮 ¥ 3.00

**ツルヤ**

平・四 電一四〇